

(様式1)

令和7年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立曳舟小学校
校長名	松塚 智加子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・6年連続して区の目標値を全ての観点で上回った。全国平均も、全教科、全観点において上回ることができた。向上要因としては、教師の授業改善への日常的な取り組みや、CD層への放課後補習教室の実施の成果である。・理科においては専科制により、計画的で丁寧な指導により、知識・技能では目標値に対し、4年生12.9ポイント、5年生10.4ポイント、思考・判断・表現では4年生が15.2ポイント、5年生が15.8ポイント上回る成果となった。・算数は、低学年から徹底した基礎学力の反復練習や学年によっては少人数指導を取り入れることでの効果があり、どの学年も平均正答率が5ポイント以上上回った。・国語は、校内研究の成果もあり、思考・判断・表現の平均正答率は、全国の目標値よりどの学年も5ポイント上回った。	<ul style="list-style-type: none">・毎時間及び単元のねらいを達成する授業の実施。・理科の知識・技能、思考・判断・表現において、さらなる向上を目指し、学習教材「問題データベース」等を活用して、反復練習をする。今後も継続して取り組める環境を整備し、知識を習得させていく。・算数は、どの学年の観点も全国平均を上回った。今後もCD層へのふりかえりシート等を活用した個に応じた学力の定着や、低学年からの毎時間の100問計算や応用問題の繰り返し練習等を行うことで、基礎学力の定着を図る。・知識・技能だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現の能力も向上させ、学んだことを生活の中で生かせるようにする。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「好きな教科や授業がありますか」の設問では、肯定率が3年生～6年生までは90%を超え、全国平均を上回った。2年生は87%で全国より低い結果となった。特に3年生は96.8%、5年生は97.6%で、顕著に平均値が向上した。・「わからないことや気になることを調べますか」という設問では、2年生が72%、3年生51%、4年生63%、5年生54%、6年生67%で平均は下回らなかったが数値的にはやや低い。6年生においては、新聞を活用した学習取り組みを日々取り入れている成果があり、全国肯定率より16.9ポイント高かった。	<ul style="list-style-type: none">・教師が授業改善をし、つまずきのある児童の基礎学力の定着を図ることで、好きな教科を増やす必要性がある。・特に2年生は平均を下回ってしまったため、学習に対する苦手意識を減らせるような学習活動を取り入れていく。・分からないことを「知りたい」「調べたい」という気持ちになれるように意識づけをしていく。新聞や読書、及びタブレットなどを活用し、「調べる」という活動を身近なことにさせていく。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・ 2年生から6年生の東京ベーシックドリル診断シートを年に3回全校で行い、既習内容の定着を図っている。実施後はしっかりと直しを行ったり、正答率が低い児童には繰り返し練習させたりしている。・ 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果は国語・算数・理科全科目において全国の平均正答率を5ポイント以上上回った。	<ul style="list-style-type: none">・ 東京ベーシックドリル診断シートの正答率が全校平均で51.9%と昨年度より低い結果となった。数学的な考え方を問う問題や知識理解に課題がみられるため、さらなる練習を実施後のフォローを確実にこなっていく。・ 「全国学力・学習状況調査」では、国語の記述式の正答率が全国や東京都より低く、無答が2割と多いことが課題であるため、1年次からの積み重ねを徹底する。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 生活・学習の基盤づくり（学校経営方針より）

生活・学習基盤がしっかりできていることが、学力向上の土台となる。このことは、入学したその日から継続して指導し、確実に身に付けさせる。

- (1) 基本的な生活習慣の確立
- (2) 基礎的な学力の定着・向上
- (3) 論理的思考力・表現力を高める
- (4) 探究的な学習の推進
- (5) 読解力の育成
- (6) 情報活用能力の育成（多様なメディア活用）

(2) 教師の授業力育成や授業改善の推進

【具体的な授業改善の方法】

- (1) 授業の準備として、学習指導要領を確認し、教材研究をしっかりと行うとともに、児童に何を学ばせるのか単元の目標を確認する。
- (2) 授業のはじめに、本時の「めあて」を板書し、本時の流れとゴールを児童と共有する。
 - * 課題を把握し、本時の流れやゴールを確認する。
 - * 前時の復習や既習事項の確認。
 - * 日付や教科書ページ等も板書する。（丁寧なノート指導）
- (3) 授業の展開（学習方法の工夫）
 - * 自力解決・・・自分の考えをしっかりとらせる。予想や仮説を立てさせる。
 - * 学び合い・・・ペアーワークやグループ学習等に取り組み深める。考える時間の確保。
 - * 学び合いを踏まえて更に自力思考し発信する。または、適用問題に取り組む。
 - * 時間配分を意識した授業計画を立案する。
- (4) まとめと振り返りの時間の確保
 - * まとめを確実に行うとともに、振り返りを記入させ、何を学んだのか、何ができるようになったかを確認する。
- (5) 授業の始まりと終わりの時間を守り、1単位時間45分の学習時間を確保する。
 - * 「活動あって学びなし」にならないようにする。
- (6) 問題解決型の授業を実践し、①自力解決する時間、②学び合いの時間、③学び合いを踏まえて更に自力思考する時間を確保した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を

展開する。

* 「個」 → 「全体」 → 「個」の流れを踏まえた授業展開を行う。

★理科の学力向上

- (1) 理科専科を配置し、授業改善を徹底することで、基礎学力の定着が期待できる。休み時間に理科室を開放し、児童の理科への興味関心を高める。
- (2) 単元終了後に、学びを振り返る総復習を実施。ふりかえりシートを活用する。
- (3) 実験から得た結果を論理的・科学的にまとめるためのワークシート等を工夫する。

(3) 校内研究を活用した取組

令和4年度から「国語科」の読むことを通して、読解力向上に取り組んできた。今年度は、他教科においても、実践、検証することで、児童の学びに向かう力をさらに伸ばすとともに、教師の授業改善をより一層推進する。

- (1) 東京都NIE実践指定校として「新聞を活用した主体的な学び」の研修を校内で行う。
- (2) 授業のねらいを明確化し、そのねらいが定着しているかが分かる宿題等の開発。
- (3) ICTを活用した学習教材の開発と、宿題等の出し方について検証する。
- (4) 授業内容にあった宿題や課題を開発し、検証する。
- (5) 低・中・高学年に、研究授業を実施し、検証する。
- (6) 区学力調査の過去問題を2月から次年度4月にかけて活用する。

(4) 学力向上委員会の組織の活性化と充実した取組

【つまずきのある（C層、D層）児童への取組強化】

- (1) 振り返り強化期間の設定（全学年実施）
 - ※「ふりかえりシート」や「東京ベーシックドリル」「ミライシード」等活用する。
 - I期（5月）・・・・・・・・本校のみ
 - II期9月1日～10月6日
 - III期（11月）・・・・・・・・本校のみ
 - IV期1月9日～4月まで
- (2) 学力向上委員会が中心となり毎週、月：2・3年生、火：4・5・6年生を対象に放課後補習教室を実施。長期休業中の補習教室の企画・運営を提案する。夏休み補習教室は、全学年で実施する。
- (3) 令和7年1月から3月までに、当該学年の振り返りを実施（全学年実施）
 - SSSが長期休業中にふりかえりシートや学力調査の問題を活用できるように準備する。
- (4) 算数プリントやふりかえりシート等を活用し、以下の事項の共通認識を図り定着させる。
各学年修了時までに身に付けさせたい内容
 - 1学年 10の合成、ひらがな、カタカナ、繰り上がり足し算、繰り下がり引き算
 - 2学年 かけ算九九
 - 3学年 わり算、ローマ字
 - 4学年 わり算の筆算、47都道府県、東京23区
 - 5学年 小数四則計算

6 学年 分数四則計算

- (5) 学習教材「問題データベース」(理・社)の活用と定着(3～6年生)。
- (6) 新聞教材「よむYOMUワークシート」の活用と検証(5、6年生)。
- (7) 東京ベーシックドリル診断Aを7月、東京ベーシックドリル診断Bを12月、東京ベーシックドリル診断Aを3月に実施する。
- (8) 隣接学年教員での情報交換会を実施する。(年2回)

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・ 令和7年度学力向上マネジメント推進校としての取り組みの一つとして、墨田区学習状況調査の2回目を12月に行う。また、2、3月に過去問題を使用しての総復習を行う。次年度の学年の問題を活用することで、基礎学力の定着を図るとともに、全国値より15%以上まで引き上げる。
- ・ 授業改善の取り組みとして、全教員の授業スタイルを、「めあて」の提示→「授業展開(自力解決と学び合いの授業形態の導入等)」→「まとめ」とする。
- ・ 校内研究主題である「主体的に学び、自分の考えを伝え合う児童の育成～学習意欲を高める授業づくりを目指して～」を実現できるよう、東京都NIE(新聞活用)推進校の取り組みも含め、どの学年も様々な教科で基礎学力の定着と正しく文章を読むことの力を伸ばし、正答率を向上させる。
- ・ 学習意欲に関する項目を、前年度比5%以上に引き上げる。